

仁保の風



【学校教育目標】ふるさとに誇りをもち、心豊かにたくましく未来を生きぬく生徒の育成

今年は2月2日が節分。暦上はもう春です！ 「18年前の節分」ある新米教師の思い出。



今年は2月2日が冬から春へと季節が変わる「節分」、本日暦上はもう春です。まだまだ寒さが厳しいですが、皆様いかがお過ごしですか。2月3日と言えば例年では「節分」なのですが我が家としては長女の誕生日です。（いきなり私的な話ですみません。）我が家では毎年節分の日は誕生日を兼ねて、ケーキと恵方巻きで誕生を祝うのがお決まりとなっており、まさに一粒で二度おいしい日となっております。おかげさまで長女が生まれて18年間、健やかに成長し私たちを初めて親にしてくれた存在でもあります。今は受験生でもあり、親としては様々な希望を願うものですが、産まれるときは、とにかく元気で産まれてくれたらそれでよいと願っていたことを振り返ると、親というものはその時々によって、いかに一方的で勝手な期待を子どもにするものだと、つくづく考えさせられます。保護者の方も、お子様がお産まれになった時はいかがでしたか。さて、節分にあたり娘が誕生した「18年前の節分」を、ふと思い出しましたので、現代の教育と照らし合わせて、拙筆ながら綴ってみたいと思います。

18年前の2月3日、私は初任校である、宇部市の中規模校野球部を率いていました。その当時は毎日7:20から朝練を行っていましたが、その日は朝から雪が40センチ以上積もっていました。キャプテンのM君に「体育館で行うか？」と聞いたところ彼が「先生、この雪では登校する人の靴下がみんな濡れてしまいます。雪かきをしていいですか。」と言いました。私も賛同し、全員で通学路から玄関回りの雪かきを手際よく行い、その洗練された動きは、当時では当たり前でしたが、今振り返ると一朝一夕にできるものではありません。今であれば、「ありがとう！みんなよくやった。すばらしい！」と素直に賞賛するのでしょうか当時の新米教師はこのような話をした記憶があります。「今日は寒い中、自分たちの靴下を濡らして朝から作業をした。野球部が雪かきをしたことなんて気がつかない者もいるだろう。このことを損をしたと思う者はいるか。（生徒がそう思っても言える空気ではない。）ええか。男は見返りを求めず、人のために動ける男にならんといいん。お前らが大人になった時、自分がいくら疲れていても、満員電車でお年寄りや体の不自由な人を顧みず、我先にと座るような情けない男になってはいかんぞ。お前らは強い男になるために野球をやってんだからな。」と偉そうに言っていたのですが、こちらをまっすぐに見る少年のまなざしを今も忘れることはありません。

現代であれば、男とはとか、お前らと発言すること自体がアウトですし、朝練や部活動自体が廃止になろうかとしている時代です。また、いざ自分が家庭をもってみると、朝食の準備や身支度等、朝送り出すだけでも大変です。勝手に朝練や休日の遠征等を計画し、各家庭の事情を顧みず、顧問の一方的な押し付けではなかったかと反省しています。その様な無茶で不器用な青年監督も、大らかな保護者・地域の方にずいぶん助けられたものです。しかし、今も昔も変わらない、変わってはいけない志の教育は、時代や言い方は変化しても、様々な場面で伝えるべきことを伝えることが、教育者、または大人の役目であり、使命だと私は思います。

結局その日の夕方の部活動を終え、その足で産まれる娘に会いに病院に向かいました。その途中、車から見た節分の満月がこんなにも美しいものかと、感動した情景が未だに頭に蘇ってきます。それが私にとっての今から「18年前の節分」の思い出です。【校長 糸本 康浩】



生徒の様子がリアルタイムにアップされます！随時こちらをチェック！

<https://fa.fureai-cloud.jp/niho-j/>

